



## 笛木先生を偲んで

本会会長 太田 健一郎

東京大学名誉教授、本会のメンバーでもある笛木和雄先生は平成14年12月27日ご逝去されました。

笛木先生は通産省／経済省のサンシャイン計画、ムーンライト計画、WE-NET計画を通して日本の水素エネルギー開発の創生から、今日の成果を見るまで、その中心として尽くして来られました。また、本会の1975年の創設以来、その中心的なメンバーとして本会の発展に大きな貢献されました。ここに先生のご冥福をお祈りいたします。

笛木先生は高崎中学（当時）ご卒業の後、第一高等学校、東京大学工学部ご卒業の後、長らく東京大学工学部工業化学科で教鞭をとられました。ご定年ののち、東京理科大学に移られ学問の発展、学生の指導に尽くされていきました。先生のご専門は工業物理化学、電気化学と云うこととなりますが、具体的には化学熱力学を基礎とするエネルギー変換システムの材料に関する研究が主なものです。金属の高温腐食に関する Fueki-Wagner の理論は固体中の物質移動に大きなエポックを作りました。また、1987 年に見出された酸化物高温超伝導体開発では我が国における第一人者として、熱力学に基づいた材料開発を通して、常に第一線で世界をリードされておりました。

水素エネルギーに関しても 1970 年代はじめの頃より注目され、我が国でも 1973 年、最初に熱化学法による水素製造の研究会を主宰されていきました。ここでの成果は現在でも日本原子力研究所等に於ける研究として引き継がれていると言えます。水素エネルギー、燃料電池、新エネルギー等の国のプロジェクトでは責任者としての任を担われていたわけですが、技術の現状に常に厳しい眼を持たれていました。「材料が要だよ」が常におっしゃっていた言葉です。

私は学部4年の卒業研究以来、大学院の5年間、更に助手として5年間、直接、先生の下で教育を受け、研究をしました。卒論の時の厳しいお説教、自らガルブランゼン天秤の作り方を手にとってお教えいただいたのを昨日のように思い出します。東大を離れてからは、学問だけでなく、大学対抗の野球大会の相手もしていただきました。

水素エネルギーシステムの実現には多くの課題が残されています。材料開発を中心にしてこれらを一一つ解決していくのが残された者の役目と思います。

笛木先生やすらかにお休み下さい。